

シラバス

科目名	健康科学		担当者名	北原 澄高	
学 科	こども科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	後期 必修	授業時間数	36時間
授業目的	健康は基本的には自分で管理・守るべきものである。近年、健康に関する情報が多く、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。健康の三本柱とストレス対処法について学び、現在の自分の生活を見直すことが重要である。本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくりができるようになることを目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	「熱中症」とはどのようなものか、またその予防のためにどのような点を留意するかを説明できるようになる。 運動の基礎理論および体力を知ることにより、自ら健康な生活を送ることができるようになる。				
授業概要	健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの力法を学ぶ。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	自己の健康管理について、喫煙が及ぼす身体影響を考える	19		
	2	自己の健康管理について、飲酒が及ぼす身体影響を考える。	20		
	3	利便化された現代人の運動不足について学ぶ	21		
	4	運動不足と健康管理について学ぶ	22		
	5	運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識	23		
	6	救急処置についての知識と対処法を学ぶ	24		
	7	幼児救急法について学ぶ	25		
	8	AED等の救命器具について学ぶ	26		
	9	運動処方の内容について学ぶ	27		
	10	運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ	28		
	11	ウォーミングアップ、クーリングダウンについて学ぶ	29		
	12	「健康日本21」の内容について学ぶ	30		
	13	「健康日本21」から自己の健康への課題を探る	31		
	14	生活における運動の重要性について学ぶ	32		
	15	自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ	33		
	16		34		
	17		35		
18		36			
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	レポートの下書きを含むレスポンスシートの提出に対して添削後の返却をもって行う。	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート	30%	成績評価	試験の点数が6割以上で合格とする。 ただしレポートでの合格が前提条件となります。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール					

シラバス

科目名	憲法		担当者名	菅野 仁紀	
学科	こども科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	後期 必修	授業時間数	36時間
授業目的	憲法についての基本的な知識・学説・判例を理解し、習得する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	(1) 憲法とは何か、日本国憲法とは何かを把握し、その仕組みと基本原理の理解を深め、説明できること。 (2) 実際の社会問題や身近な事例を法学的かつ憲法学的な視点で考えるための心構えや知識を身につけ、それらの問題や事例に関連づけ、適用できること。 (3) これらを通して、自立・自律した市民としての批判的思考力を身につけること。				
授業概要	憲法は、近代立憲主義(人権保障および権力分立)の考え方に立脚します。本講義は、基本的人権の保障(人権総論・精神的自由権・経済的自由権等)および憲法の統治機構(国会・内閣・裁判所等の組織と権限等)に関する基本事項を扱います。 日本国憲法で保障されている人権とは何か、国の政治が実際にどのように行なわれているのか等について、学説と重要判例、さらに近時の事件・問題等を通して学習します。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	「法とは何か」身の周りの事例から法・法律、保育をめぐる法律問題を学ぶ	19		
	2	「憲法とは何か 近代立憲主義について」近代立憲主義と社会契約論、憲法の目的	20		
	3	「統治機構① 権力分立、国会・内閣について」権力分立の意味と国会・内閣の役割	21		
	4	「統治機構② 裁判所と違憲立法審査権について」裁判所の役割と違憲立法審査権	22		
	5	「国民主権と天皇制」主権について考える、象徴天皇制について学ぶ	23		
	6	「平和主義 憲法9条と戦争放棄について」憲法9条の意義とそれをめぐる議論を学ぶ	24		
	7	「基本的人権の原理」人権とは何かをその歴史的経緯から考える	25		
	8	「包括的基本権 幸福追求権について」新しい人権とはどのような権利なのか、具体的権利	26		
	9	「法の下での平等 憲法における法の下での平等の意味について」許される区別と許されない区別	27		
	10	「人身の自由 適正手続の保障について」法律の定める手続とはどのような手続なのか	28		
	11	「精神的自由権① 思想・良心の自由」考える自由の意義について考える	29		
	12	「精神的自由権② 信教の自由・政教分離」国家と宗教の関わりについて、判例を学ぶ	30		
	13	「精神的自由権③ 表現の自由」表現の自由はなぜ優越的な地位を占めるのかについて考える	31		
	14	「経済的自由権 職業選択の自由について」消極目的規制と積極目的規制について考える	32		
	15	「社会権 生存権について」「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」の意義について考える	33		
	16		34		
	17		35		
18		36			
成績割合	テスト	通信教育課程の試験形式および採点基準による	学習FB方法	授業後などに質問・相談を受け付けます。	
	学習態度・出席率	授業回数80%以上の出席をもって評価対象とする			
	レポート	通信教育課程のレポート形式および採点基準による	成績評価	通信教育課程の評価基準による	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80% R<<実働実践型学習>>60% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体験型学習>>10%				
講師プロフィール	早稲田大学法学部卒(学士(法学)) 中央大学大学院法学研究科公法専攻博士前期課程修了(修士(法学)) 中央大学大学院法学研究科公法専攻博士後期課程単位取得 中央大学法学部通信教育課程 インストラクター(憲法担当) 神奈川大学法学部 非常勤講師(法学・法学II、法学部基礎演習I担当) 国際学院埼玉短期大学幼児保育学科 非常勤講師(くらしと法律(日本国憲法)担当) 作新学院大学女子短期大学幼児教育科 非常勤講師(日本国憲法担当)				

シラバス

科目名	英語コミュニケーション		担当者名	鈴木 由華	
学科	こども科		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	後期 必修	授業時間数	72時間
授業目的	保育の現場で運用できる英語コミュニケーション能力を身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	①英語への苦手意識を無くす。 ②異文化を理解する。 ③英語表現の基礎となる文法・構文を理解する。 ④保育の現場に必要なコミュニケーション力を身につける。				
授業概要	①基礎英語の復習。 ②保育の現場での様々な生活場면을題材にした英語表現を学ぶ。 ③リスニング、スピーキング、ペア・グループワークでコミュニケーション力を養う。 ④子ども遊びがテーマの異文化交流の企画、実行を通じて、コミュニケーション力、異文化理解をさらに深める。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	オリエンテーション	19	前期復習自己紹介2	
	2	自己紹介 in English	20	レポート対策・質疑応答	
	3	英語の基礎を学ぼう(主語・述語・動詞) 保育英語(入園準備) ナーサリータイムを楽しもう(手遊び歌)	21	日本の幼児遊びを英語紹介しよう!	
	4	英語の基礎を学ぼう(動詞) 保育英語(登園・降園) 絵本読み聞かせ(Big Pumpkin)	22	日本の幼児遊びを英語紹介しよう!	
	5	英語の基礎を学ぼう(名詞) 保育英語(室内遊び) ナーサリータイムを楽しもう(手遊び歌)	23	日本の幼児遊びを英語紹介しよう!	
	6	英語の基礎を学ぼう(品詞) 保育英語(外遊び・けんか) 英語圏の文化を知ろう(行事)	24	保育英語: Children's Garden	
	7	英語の基礎を学ぼう(品詞) 保育英語(健康・病気・ケガ) 英語の歌	25	保育英語: First Day of the Internship	
	8	英語の基礎を学ぼう(文型) 保育英語(運動・お散歩) 英語の歌(Christmas songs)	26	保育英語: Out We Go!	
	9	英語の基礎を学ぼう(時制) 絵本読み聞かせ(Big Hilda Helps Santa)	27	保育英語: Splish, Splash	
	10	英語の基礎を学ぼう(復習) 保育英語(1~6復習) Short Storyを読もう1	28	保育英語: Pancake Day	
	11	英語の基礎を学ぼう(比較) 保育英語(食事) 英語の歌	29	保育英語: Read Me, Tell Me Stories	
	12	英語の基礎を学ぼう(言い換え特訓) 保育英語(着替え・トイレ) Short Storyを読もう2	30	テスト対策講義	
	13	英語の基礎を学ぼう(言い換え特訓) 保育英語(工作・お絵かき) 英語の歌	31	保育英語: Activities with Watermelons	
	14	英語の基礎を学ぼう(瞬間英作文) 保育英語(乳児保育)	32	保育英語: Happy Birthday!	
	15	英語の基礎を学ぼう(瞬間英作文) 保育英語(おたより・行事)	33	保育英語: Children at Play	
	16	英語の基礎を学ぼう(瞬間英作文) 保育英語(連絡帳)	34	保育英語: Baby News	
	17	英語の基礎を学ぼう(瞬間英作文) Short Storyを読もう3	35	保育英語: The Tooth Fairy	
	18	英語の基礎を学ぼう(復習) 保育英語(復習) Short Storyを読もう4	36	保育英語: The Green-Eyed Witch	
成績割合	テスト	25%	学習FB方法	成績評価 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	学習態度・出席率	50%			
	レポート	25%			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>25 R<<実働実践型学習>>25 A<<主体的参加型学習>>25 G<<海外体感型学習>>25				
講師プロフィール	カナダ留学、大手英会話学校、国連機関での勤務経験あり 現通訳案内士、英語コーチ				

シラバス

科目名	情報リテラシーと処理技術		担当者名	榎村 麻里子	
学 科	こども科		授業方法	演習	
認定単位	2単位	開 講 期	後期	授 業 時 間 数	72時間
開講学年	1学年	必・選	必修		
授業目的	幼児教育業界で業務の効率化が推進される中、必要とされるITリテラシーを身に付けます。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	パソコンの基礎知識、インターネットでの情報検索方法、アプリケーション基本操作を学ぶ。特に理解しておきたい内容として、情報セキュリティやコンプライアンスに関するITリテラシー、SNSやホームページにおけるリスク管理、保護者への通信文、イベントポスター等の書類作成スキルを身に付ける。				
授業概要	パソコン実習を通じて、キーボード操作を身に付け、必要な情報検索方法を身に付ける。 Word: 基本的な通信文書の形式を覚え、現場で必要とされる実践的な書類を作成する。 Excel: 簡単な表作成、数式、関数を学ぶ。 PowerPoint: 現場で活用できるプレゼンテーションスキルを身に付ける。				
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容
	1	教室環境の確認、Windowsの基本操作大学併修の場合、レポート提出課題につ	19		
	2	文字の入力、アプリケーションの知識ページ設定	20		
	3	文書の作成、インターネットでの情報検索1大学レポート課題(1)	21		
	4	書式設定、インターネットでの情報検索2大学レポート課題(2)	22		
	5	情報リテラシー大学レポート課題(3)	23		
	6	書式設定、インターネットでの情報検索3大学レポート課題(4)	24		
	7	文書校正、校閲大学レポート課題仕上げ	25		
	8	大学科目習得試験内容について大学科目習得試験対策(1)	26		
	9	文書作成と編集大学科目習得試験対策(2)	27		
	10	文書作成と編集大学科目習得試験対策(3)	28		
	11	大学科目習得試験仕上げ期末プレテスト	29		
	12	期末テスト	30		
	13	ビジネス文書作成(幼稚園通信文)	31		
	14	ビジネス文書作成(幼稚園通信文)	32		
	15	ビジネス文書作成(幼稚園ポスター)	33		
	16	まとめ	34		
	17		35		
18		36			
成 績 割 合	テスト	40%	学習FB方法	課題を添削してフィードバックする	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	課題提出:30%	成績評価		
	合計	100%			出席率80%以上 東京工学院の成績評価に準じる
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	コンピュータ会社で勤務した経験を持ち、大学・専門学校・企業研修でパソコン実習、情報系の資格講座を中心としての講師経験も長い。実務現場で必要とされるパソコンスキルを身に付けられるような授業を展開する。				

シラバス

科目名	スポーツ(実技)		担当者名	北原 澄高	
学 科	こども科		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	後期 必修	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する知識や実技を行い、健康と安全に留意しながら個人的・集団的スポーツを楽しむことができ、作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の向上を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図る。また、ニュースポーツも体験・理解するなど、生涯にわたってスポーツに親しむ能力を育成する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・ニュースポーツなどを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようにする。				
授業概要	各種スポーツをなかまとともに体験し、技能の向上を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。				
授 業 計 画 表	授 業 内 容			授 業 内 容	
	1	スクーリングのスケジュール等の説明	19		
	2	基礎練習	20		
	3	応用練習	21		
	4	ゲーム・審判	22		
	5	エアロビクス運動・ダンス	23		
	6	基礎練習	24		
	7	シングルスゲーム	25		
	8	ダブルスゲーム	26		
	9	基礎練習	27		
	10	ゲーム・審判	28		
	11	基礎練習	29		
	12	シングルスゲーム	30		
	13	ダブルスゲーム	31		
	14	インディアカ・モルック等	32		
	15	ウォーキングの実践とその効果についての学習	33		
	16		34		
	17		35		
18		36			
成 績 割 合	テスト	60%	学習FB方法	成績評価 スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)	
	学習態度・出席率	40%			
	レポート		成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール					

シラバス

科目名	こども家庭福祉		担当者名	津村 恵子			
学 科	こども科		授業方法	講義			
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	後期 必修	授 業 時 間 数	36時間		
授業目的	保育士として必要な「こども家庭福祉」に関する知識を学び、考察力を養う						
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会における子どもを取り巻く社会状況を理解し、こども家庭福祉の意義、役割、制度や関係機関の実施体制について学ぶ。 子どもの人権に目を向けながら、こども家庭福祉の現状と課題について学ぶ。						
授業概要	必要な基本的知識について講義形式で学び、具体的事例を用いた個人ワーク及びディスカッションを通し、こども家庭福祉の今日的課題について、保育士の視点から考察していく。						
授 業 計 画 表	授 業 内 容			授 業 内 容			
	1	現代社会における子どもを取り巻く社会状況①	19				
	2	現代社会における子どもを取り巻く社会状況②	20				
	3	こども家庭福祉の理念	21				
	4	こどもの貧困問題	22				
	5	貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍のこどもとその家庭など、様々な家庭への対応	23				
	6	子どもの権利（人権擁護と課題）	24				
	7	こどもの虐待①	25				
	8	こどもの虐待②	26				
	9	レポート作成の手引き	27				
	10	レポート指導	28				
	11	こども家庭福祉の制度と実施体制 専門機関と専門職	29				
	12	児童福祉施設と専門職	30				
	13	様々なニーズと地域の子育て支援	31				
	14	社会的養護	32				
	15	障がいのある子ども	33				
	16	母子保健と子どもの健全育成	34				
	17	海外のこども家庭福祉	35				
18	科目試験対策	36					
成 績 割 合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に、必要内容をクラスで共有			
	学習態度・出席率	30%					
	レポート	30%	成績評価			出席率80%以上 S90-100点 A80-89点 B70-79点 C60-69点 D59点以下 は不合格	
	合計	100%					
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>						
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験 地域の障がい児者支援に長年尽力している						

シラバス

科目名	社会福祉論		担当者名	津村 恵子			
学 科	こども科		授業方法	講義			
認定単位	2単位	開 講 期	前期	授 業 時 間 数	36時間		
開講学年	1学年	必・選	必修				
授業目的	保育士として必要な社会福祉に関する知識を学び、考察力を養う						
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会における社会福祉の意義・役割を理解し、子ども家庭支援の視点、制度、方法について学ぶ。						
授業概要	必要な基本的知識について講義形式で学び、具体的事例を用いた個人ワーク及びディスカッションを通し、社会福祉の今日的課題について、保育士の視点から考察していく						
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	社会福祉とは ～身近な問題から福祉を考える		19			
	2	社会福祉の理念・基本的人権		20			
	3	障害者福祉		21			
	4	共生社会とインクルーシヴ保育		22			
	5	子どもの人権①		23			
	6	こどもの人権②		24			
	7	レポート作成・サポート指導①		25			
	8	レポート作成・サポート指導②		26			
	9	女性の社会参加について 現状と課題		27			
	10	少子化問題・子育て支援の政策について		28			
	11	日本における貧困問題と公的扶助		29			
	12	社会福祉の専門職		30			
	13	高齢者福祉		31			
	14	社会福祉の相談援助(ソーシャルワーク)		32			
	15	社会福祉における利用者保護に関わる仕組み		33			
	16	社会福祉の動向と課題		34			
	17	海外の社会福祉		35			
	18	科目試験対策		36			
成 績 割 合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に必要内容をクラスで共有する			
	学習態度・出席率	30%					
	レポート	30%	成績評価			出席率80%以上 S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%					
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>						
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験。地域の障がい児者支援活動に長年尽力している。						

シラバス

科目名	保育原理		担当者名	河野 亮子	
学 科	こども科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	前期 必修	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育に関する基本的知識等、保育全般について理解する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追求する。				
授業概要	子どもをめぐる環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学ぶ。 具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育における様々な課題に関する認識を深める。				
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容
	1	保育とは何か①保育の意義と目的		19	
	2	保育とは何か②子どもの最善の利益を考慮した保育・保育者との協働		20	
	3	保育とは何か③保育の社会的意義・保育所保育と家庭的保育		21	
	4	レポート指導①		22	
	5	レポート指導②		23	
	6	保育所保育指針における保育の基本①		24	
	7	保育所保育指針における保育の基本②		25	
	8	保育所保育指針における保育の基本③		26	
	9	保育の質を高めるための方法①		27	
	10	保育の質を高めるための方法②		28	
	11	保育の質を高めるための方法③		29	
	12	保育の思想と歴史の変遷・欧米の保育思想の展開と保育施設の発展		30	
	13	保育の思想と歴史の変遷・我が国における保育の歴史の変遷		31	
	14	保育の制度・保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育事業①		32	
	15	保育の制度・保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育事業②		33	
	16	保育の現状と課題①		34	
	17	保育の現状と課題②		35	
18	1回～17回の授業の振り返り・科目試験		36		
成 績 割 合	テスト	40%		学習FB方法	出席率80%以上 S90～100点 A80～89点 B79～70 C69～60点 D59点以下は不合格
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%		成績評価	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育園・幼稚園の勤務を経て、地元の子育て支援サークルの運営にも携わる経験を持ち、他の専門学校でも教鞭を取っている。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「言葉」		担当者名	細田 のりこ	
学科	こども科		授業方法	演習	
認定単位	1単位	開講期		授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選	必修		
授業目的	<p>スクーリング:1, 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、コミュニケーションを図ることができるようになる。</p> <p>2, こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようになる。</p> <p>3, 乳幼児期の言葉の重要性を、絵本、物語、言葉遊び、文字体験活動等も加え、広範囲に役割が認識できるようになる。</p> <p>4, 子どもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる。</p> <p>5, 言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解できるようになる。</p>				
授業目標 (ラーニング アウトカム)	<p>1, 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とする。</p> <p>2, 言葉を用いて試行し、人に話そうとする意欲、他人の話聞く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。</p> <p>3, 言葉遊び(わらべうた、なぞなぞ・しりとり等)9文字体験(カルタ、標識、ごっこ遊び)等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解することを目的とする。</p> <p>4, こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語、絵本、紙芝居等のイメージ体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解することを目的とする。</p> <p>5, 言葉に問題があり、遅れがある幼児、また外国籍の幼児等についてここに応じた配慮、支援を認識することを目的とする。</p>				
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉の在り方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	ガイダンス 幼児教育と言葉 領域「言葉」	19		
	2	幼児教育と言葉 ・言葉とは何か・生活と言葉(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと) 言葉環境としての保育者の言葉の在り方	20		
	3	幼児教育と言葉・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり	21		
	4	乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 ・領域「言葉」指導上の留意点と評価	22		
	5	乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み	23		
	6	言葉を豊かに育む活動(1) ・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法	24		
	7	言葉を豊かに育む活動(1) ・わらべ歌、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育	25		
	8	言葉を豊かに育む活動(1) ・言語教材としての物語、紙芝居、人形劇等の遊び	26		
	9	言葉を豊かに育む活動(2) ・文字空文字へ、文字による環境	27		
	10	言葉を豊かに育む活動(2) ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の製作(情報機器活用及び教材活用)及び模擬保育体験	28		
	11	保育者と言葉の在り方・言葉の遅れや障がいがある乳幼児の捉え方と支援	29		
	12	保育者と言葉の在り方・外国の子どもの対応	30		
	13	言葉を豊かに育む活動(3)・言語教材としての絵本の意義①	31		
	14	言葉を豊かに育む活動(3)・言語教材としての絵本の意義②	32		
	15	言葉を豊かに育む活動(3) ・デジタル教材の利用と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成	33		
	16	言葉を豊かに育む活動(4) ・絵カード・カルタ等を利用した指導法と情報機器の利用について	34		
	17	言葉を豊かに育む活動(4) ・お話等の実践による指導案作成及び模擬保育	35		
	18	言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携 グローバルな視点・子どもの言葉の獲得について	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績評価	出席率80%以上を基本とし、受講態度やグループワーク、試験結果などを総合的に評価する。合格は60点以上とする。
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	保育・教育現場にて25年間勤務、園での主任業務や子育て支援活動を経て、育児書籍の執筆を行う。子育て家庭の保護者や保育施設職員を対象としたセミナー講師、都内教育委員会との「保幼小接続連携事業」にも従事。また、現在は地域の子育て相談員、専門学校、大学、短期大学の非常勤講師として教鞭を執っている。剣道六段取得後、地域の青少年育成を目的とし、剣道指導者としても活動している。				

シラバス

科目名	保育内容総論		担当者名	國分啓子	
学 科	こども科		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開講期 必・選	前期 必修	授業時間数	36時間
授業目的	幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的に捉え、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、教育・保育計画、具体的援助等について保育の流れを概観し、ある領域に偏って指導されるものではなく、5領域が相互に関連をもちながら総合的に展開するものであることを保育実践と結びつけながら学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を理解する。3施設の教育・保育要領を理解したうえで、実際保育現場において、保育の展開、保育者の役割に対する理解を深める。				
授業概要	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をテキストとして用いながら、3施設の役割、機能について理解する。さらに領域の捉え方を踏まえ、各領域におけるねらいや内容、内容の取扱いについて理解していく。グループでの取り組みも通し、総合的な指導の必要性について理解を深め、保育指導計画を立案・展開し、学生による相互評価なども行う。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	保育内容総論とは①保育内容総論を考える。	19		
	2	保育内容総論とは ②育みたい資質・能力と幼児期の終わりまでに育って欲しい姿	20		
	3	保育内容の歴史の変遷①明治・大正・昭和の保育内容	21		
	4	保育内容に歴史の変遷②平成の保育内容の変遷と今後の課題	22		
	5	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育における保育内容の捉え方 ①幼稚園教育要領	23		
	6	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育における保育内容の捉え方 ②保育所保育指針	24		
	7	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方③認定こども園教育・保育要領	25		
	8	レポート作成指導 ①設題に対しての作成の手引き	26		
	9	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ①乳幼児に取っての園行事の意味と在り方	27		
	10	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ②幼保小の円滑な連携	28		
	11	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ①環境を通して行う保育	29		
	12	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ②遊びによる総合的な保育	30		
	13	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ①全体的な計画の作成	31		
	14	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮	32		
	15	保育の評価と保育記録 ①子ども理解(幼児理解)に基づく評価	33		
	16	保育の評価と保育記録 ②観察記録を書く意味と子ども理解	34		
	17	保育内容の現代的課題について ①子育て支援	35		
18	保育内容の現代的課題について ②特別な配慮を必要とする子どもの保育	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上を基本とし、受講態度やグループワーク、試験結果などを総合的に評価する。合格は60点以上とする。	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/C割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者として子ども一人一人に寄り添う姿勢や子育て家庭が持つ悩み等保護者の現状を熟知していると共に現場での保育者が抱える精神を理解できている。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍し講師を担当している。				

シラバス

科目名	保育実習 I (保育所)		担当者名	河野 亮子	
学 科	こども科		授業方法	実習	
認定単位	3単位	開 講 期	必修	授 業 時 間 数	108時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	保育実習を円滑に行う為に必要な事柄を学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えが出来るとともに、保育実習に必要な知識・技術・実践力を身に付ける。				
授業概要	保育実習とは、保育者養成課程において習得しつつある教科の知識や技術を基盤として、これらを総合的に関連付ける力と、保育実践にこれらの知識や技術を応用する力を養い、子ども達を取り巻く保育現実の理解を通して、保育の理論と実践の関係について習熟させるものである。				
授 業 計 画 表		授業内容		授業内容	
	1	保育所とは(役割・機能等)	19		
	2	発達過程について(0・1・2歳児)①	20		
	3	発達過程について(0・1・2歳児)②	21		
	4	発達過程について(3・4・5歳児)③	22		
	5	発達過程について(3・4・5歳児)④	23		
	6	レポート指導	24		
	7	保育技術 絵本の読み聞かせ	25		
	8	保育技術 紙芝居の演じ方	26		
	9	保育技術 折り紙の折り方	27		
	10	保育技術 手遊び	28		
	11	保育所保育指針について①	29		
	12	保育所保育指針について②	30		
	13	発達を促す遊び・関わり・実践例を学ぶ①	31		
	14	発達を促す遊び・関わり・実践例を学ぶ②	32		
	15	実習日誌の記入方法	33		
	16	指導計画の記入方法	34		
	17	保育所実習事前準備について	35		
18	1回目～17回目の振り返り・テスト	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89点 B79～70点 C69～60点 D59点以下は不合格
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育園・幼稚園の勤務を経て、地元の子育て支援サークルの運営にも携わる経験を持ち、他の専門学校でも教鞭を取っている。				

シラバス

科目名	保育実習指導 I		担当者名	河野 亮子	
学 科	こども科		授業方法	演習	
認定単位	2単位	開講期	後期	授業時間数	72時間
開講学年	1学年	必・選	必修		
授業目的	保育実習を円滑に行う為に必要な事柄を学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えが出来るとともに、保育実習に必要な知識・技術・実践力を身に付ける。				
授業概要	保育実習とは、保育者養成課程において習得しつつある教科の知識や技術を基盤として、これらを総合的に関連付ける力と、保育実践にこれらの知識や技術を応用する力を養い、子ども達を取り巻く保育現実の理解を通して、保育の理論と実践の関係について習熟させるものである。				
授業計画表		授業内容			授業内容
	1	保育所とは(役割・機能等)	19		
	2	発達過程について(0・1・2歳児)①	20		
	3	発達過程について(0・1・2歳児)②	21		
	4	発達過程について(3・4・5歳児)③	22		
	5	発達過程について(3・4・5歳児)④	23		
	6	レポート指導	24		
	7	保育技術 絵本の読み聞かせ	25		
	8	保育技術 紙芝居の演じ方	26		
	9	保育技術 折り紙の折り方	27		
	10	保育技術 手遊び	28		
	11	保育所保育指針について①	29		
	12	保育所保育指針について②	30		
	13	発達を促す遊び・関わり・実践例を学ぶ①	31		
	14	発達を促す遊び・関わり・実践例を学ぶ②	32		
	15	実習日誌の記入方法	33		
	16	指導計画の記入方法	34		
	17	保育所実習事前準備について	35		
18	1回目～17回目の振り返り・テスト	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89点 B79～70点 C69～60点 D59点以下は不合格
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育園・幼稚園の勤務を経て、地元の子育て支援サークルの運営にも携わる経験を持ち、他の専門学校でも教鞭を取っている。				

シラバス

科目名	保育講座 I		担当者名	佐藤 裕子、坂斉 彩、土屋 さとみ		
学 科	こども科		授業方法	演習		
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数	72時間	
授業目的	各種実習に向け、実習を円滑に行うために必要な事柄の学習を授業目的とする。 特徴のある子どもの発達とその支援について学ぶ。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に実習生として求められる姿や、適正、多岐にわたる保育技術の一部修得や紹介を行う。 基本的な実習日誌の書き方等を繰り返し身に着ける。					
授業概要	各種実習は、保育者の養成課程において習得した、もしくは習得しつつある教科の知識や技術を基盤として、これらを総合的に関連付ける力と、保育実践にこれらの知識や技能を応用する力を養い、子どもたちをとりまく保育現実の理解を通して、保育の理論と実践の関係について習熟させるものである。					
授業計画表	授業内容			授業内容		
	1	ガイダンス	19	ガイダンス～前期振り返り～		
	2	保育について考える	20	見学実習振り返り		
	3	学生基礎学力を考える	21	実習日誌の役割		
	4	実習の流れについて	22	実習日誌の記入練習 ①目標・ねらい		
	5	なぜ実習が必要なのか／漢字テスト	23	実習日誌の記入練習 ②環境構成		
	6	実習の種類・時期・実習区分	24	実習日誌の記入練習 ③子どもの活動		
	7	保育所・幼稚園・認定こども園の比較／漢字テスト	25	実習日誌の記入練習 ④保育者の援助		
	8	1年間の行事・季節の歌	26	施設実習について①		
	9	保育士の仕事とデイリープログラム	27	施設実習について②ゲストスピーカー		
	10	DVD 保育士と幼稚園教諭の1日／漢字テスト	28	実習事前指導(オリエンテーション)について①		
	11	実習依頼について①	29	実習事前指導(オリエンテーション)について②		
	12	実習依頼について②／漢字テスト	30	実習情報共有		
	13	実習生としての心構え・マナー	31	実習事例共有①		
	14	敬語について／漢字テスト	32	実習事例共有②		
	15	保育技術①～赤ちゃん人形～	33	実習における成績について		
	16	保育技術②～児童文化財～	34	実習に向けた各自目標設定		
	17	見学実習指導～ガイダンス～	35	振り返り		
18	振り返り／夏休み期間の指導	36	振り返り／実習確認			
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	後期 成績表送付 出席率80%以上 S:100～90点 A:89～80点 B:79～70点 C:69～60点 59点以下は不合格		
	学習態度・出席率	30%				
	レポート	20%(提出物含む)	成績評価			
	合計	100%				
P/R/A/C割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>30% A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>10%					
講師プロフィール	担当員は、保育園での勤務及び主任保育士としての経験があり、専門学校では、実習や就職の担当をしており、現場に即した、対応を行う。					

シラバス

科目名	人間関係論		担当者名	國分 啓子	
学 科	こども科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	後期 必選	授 業 時 間 数	18時間
授業目的	子どもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育(保育)で子どもが身につけ。育って欲しい、学びに向かう力、人間性等教育内容に関する知識を身につける。子どもを取り巻く他者との関係、集団との関係等、子どもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通し育つことを理解する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	子どもは様々な人との豊かな関わりによって、発達に必要な経験を得ていく。幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園が子どもにとって豊かな関わり場の場となるには、関わりを適切に支えられる保育者の存在が不可欠である。本授業では領域「人間関係」について、子どもを取り巻く環境と子どもの発達を把握した上で、保育における人との関わりや育ちとそれを支える保育者の援助のあり方について理解を深めていくと共に、人間関係という側面を理解する。				
授業概要	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係に関する発達心理学的基盤について理解する。人間関係についての知識を真に役立つ知識とするためには、単なる知的理解では不十分で、人間関係に関する力は体験や実践を通して自ら気づき、考え、感じることで身に付いていくものである。本授業では体験学習の理論と手法についてもなるべく時間を割いて紹介すると共に、保育実践において人間関係を育む際の保育者の役割について理解を深めるため、子どもの発達に応じた保育のあり方を考える。				
授 業 計 画 表		授 業 内 容		授 業 内 容	
	1	領域「人間関係」 1、ねらいと内容の考え方	19		
	2	領域「人間関係」 2、ねらい内容の取扱い	20		
	3	人間関係を取り巻く社会環境① 1、少子高齢化	21		
	4	人間関係をとりまく社会環境① 2、家族の変化	22		
	5	人間関係をとりまく社会環境② 1、身近な環境の変化 2、メディアの変化	23		
	6	レポート作成の手引きと指導	24		
	7	人間関係をつむぐ子どもの発達① 1、規範意識と道徳性の芽生え(育ち)	25		
	8	人間関係をつむぐ子どもの発達① 2、ルール決まり事の意味と意義	26		
	9	人間関係をつむぐ子どもの発達① 3、葛藤やつまずきを通して成長する	27		
	10	人間関係をつむぐ子どもの発達① 4、一人一人が大切にされるという事	28		
	11	人間関係をつむぐ子どもの発達② 1、子どもの自立心の育ち	29		
	12	人間関係をつむぐ子どもの発達② 2、子どもの協同性の芽生え	30		
	13	人間関係とこどもの遊び 1、遊びの中で育つ乳児の人間関係	31		
	14	人間関係とこどもの遊び 2、遊びの中で育つ幼児の人間関係	32		
	15	人間関係とこどもの生活 1、家庭とのかかわりと子どもの発達	33		
	16	人間関係とこどもの生活 2、地域とのかかわりと子どもの発達	34		
	17	今日的な人間関係の課題 1、多様な文化の子ども	35		
18	今日的な人間関係の課題 2、気に留めたい子ども	36			
成 績 割 合	テスト	40%	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上を基本とし、受講態度やグループワーク、試験結果などを総合的に評価する。合格は60点以上とする。	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%			
	合計	100%			
P/R/A/C割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者として子ども一人一人に寄り添う姿勢や子育て家庭が持つ悩み等保護者の現状を熟知していると共に現場での保育者が抱える精神を理解できている。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍し講師を担当している。				

シラバス

科目名	音楽表現論		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども科		授業方法	演習	
認定単位	1単位	開講期	前期	授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選	必選		
授業目的	感性と表現に関する領域「表現」を学び専門的知識を身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	音楽表現指導に関する専門的知識、環境構成を学び、またレポート作成を完成する。				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的な指導法の習得と基礎的な音楽知識を身につける。				
授業計画表		授業内容			授業内容
	1	音楽表現論をとおして学ぶこと 科目ガイダンス		19	
	2	領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程		20	
	3	音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解		21	
	4	自然が生み出す音とはどういうものか？サウンドスケープの採り入れ方、またそのイメージを表現するための音の理解		22	
	5	音楽理論の基礎知識1(五線譜記譜法、音部記号、音名)		23	
	6	音楽理論の基礎知識2(音符と休符、拍子とリズム)		24	
	7	レポート作成の手引き		25	
	8	レポート指導		26	
	9	レポート指導		27	
	10	レポート指導		28	
	11	1年間に行事や歌われる幼児楽曲と童謡、わらべ歌と現代の歌についての分析		29	
	12	日本の童謡、子どもの歌の時代に視点をのこした分析		30	
	13	音楽理論の基礎知識3(音程、調、和音、コードネーム)		31	
	14	音楽理論の基礎知識4(速度記号と標語のまとめ)		32	
	15	リズムと拍子 拍、の実践		33	
	16	保育実践における豊かな表現を引き出すための援助のあり方		34	
	17	科目試験対策		35	
18	科目試験対策		36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	教科書、teamsのファイルも活用し、五線紙に記入することにより音楽理論の基礎知識も身につける。	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上、レポート課題、科目試験の合格は60点以上とする	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>30				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学び、リトミック指導の資格を取得して日本でも、ピアノ指導、リトミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	音楽指導実技 I		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども科		授業方法	演習	
認定単位	2単位	開 講 期		授 業 時 間 数	72時間
開講学年	1学年	必・選	選択		
授業目的	ピアノ演奏技術を修得し、1年間の季節ごとの子どもの歌や生活の歌の弾き歌いを修得する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	ピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう多くの子どもの歌の弾き歌いができる。				
授業概要	各自レベルにあった伴奏付け(左手単音伴奏、コード伴奏、楽譜そのまま)をすることができ、多くの子どもの歌の弾き歌いを身につける。 発表の場を、積極的に設ける。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション 英語音名、伴奏法(単音伴奏、コード譜)説明	19	お辞儀のコード 季節の歌 9月 とんぼのめがね	
	2	季節の歌 4月 チューリップ	20	秋の歌 どんぐりころころ19の復習	
	3	季節の歌 4月 ちょうちよ2の復習	21	秋の歌 大きな栗の木の下で 20の復習	
	4	季節の歌 4月 ぶんぶんぶん春の歌の復習	22	秋の歌 こぎつね(プリント) 21の復習	
	5	季節の歌 5月 こいのぼり 4の復習	23	秋の歌 虫の声 (プリント)22の復習	
	6	季節の歌 めだかの学校 5の復習	24	後期小テスト1	
	7	季節の歌 6月 かたつむり 6の復習	25	季節の歌 10月 きのこ	
	8	小テスト1	26	季節の歌 10月 焼き芋グーチーパー	
	9	かえるのうた	27	季節の歌 11月 まつぼっくり 25の復習	
	10	かえるのうた(ピアノで輪唱)	28	季節の歌 11月 まつぼっくり 真っ赤な秋 27の復習	
	11	むすんでひらいて(コードの説明C、F、G、G7) 10の復習	29	季節の歌 11月 たき火 28の復習	
	12	おおきなたいこ(ドラマ)11の復習	30	季節の歌 12月 あわてんぼうのサンタクロース29の復習	
	13	ドレミの歌 (ドからシに分ける)	31	季節の歌 12月 ジングルベル	
	14	アイアイ 13の復習	32	季節の歌 1月 お正月	
	15	季節の歌 7月 たなばたさま うみ14の復習	33	コンコンクシヤンの歌	
	16	季節の歌 キラキラ星 15の復習	34	季節の歌 2月 まめまき	
	17	季節の歌 おばけなんてないさ16の復習	35	季節の歌 ゆき	
18	小テスト2	36	小テストとまとめ		
成 績 割 合	テスト	40%	学習FB方法	各自レベルにあった伴奏法を学び、確実に弾けるように指導をする。 動画も活用。	
	学習態度・出席率	60%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上、授業態度を重視する。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学びリミック指導の資格を取得し日本でも、ピアノ指導、リミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	選択ピアノ I		担当者名	松野 由実子		
学 科	こども科		授業方法	演習		
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	72時間	
授業目的	ピアノ音楽の基礎力を習得する。 読譜力、リズム感を養う。バイエルなどの教則本と簡易なピアノ伴奏のピアノ弾き歌いができるようになること。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	音楽・ピアノ演奏の基礎力の取得。特に2年生の実習に備え、保育の実習に対応できるピアノ演奏を目指す。					
授業概要	授業はテキスト「音楽表現」豊岡短期大学 に沿って進める。また、学生の音楽レベルについて、部活動などの音楽経験者、ピアノレッスン経験者と、ピアノ初心者を比べると大きく差がある。そのため、授業内で個別指導を行う。					
授業計画表	授業内容			授業内容		
	1	ピアノ導入 ①鍵盤に慣れる ドの位置を覚える	19	音階ト長調、ホ短調調号#1つまでの調		
	2	ピアノ導入 ②音名(ドイツ音名、日本音名、イタリア音名)音部記号(ト音記号へ音記号)の説明	20	音階ヘ長調、ニ短調調号b1つまでの調		
	3	ピアノ導入 ③音符、休符長さ高さの説明	21	コードネームG,C,Dト長調の主要三和音 響きを覚える		
	4	ピアノ導入 ちょうちょう 両手で弾く	22	コードネームF,BbCヘ長調の主要三和音		
	5	ピアノ実技 むすんでひらいて メリーさんのひつじ	23	ピアノ個別指導 個人のレベルに合わせて指導する		
	6	ピアノ実技 ちょうちょう 弾きながら、階名唱する	24	ピアノ個別指導 個人のレベルに合わせて指導する		
	7	テキストより バイエル教則本NO11, 18, 20, 29, 44	25	月1回の小テストの不合格曲を合格できるように練習する		
	8	音階ハ長調 音階の指使いに慣れる	26	バイエルピアノ教則本NO60, 62,		
	9	和音記号 ハ長調 I IV V 主要三和音 三和音の響きを弾いて覚える	27	バイエルピアノ教則本NO103, 104		
	10	コードネーム C F G	28	バイエルピアノ教則本NO103, 104		
	11	音階イ短調 3種類の短音階を学ぶ	29	バイエルピアノ教則本NO103, 104		
	12	和音記号 ハ長調 II III VI 副三和音	30	弾き歌い おはようのうた 実習にそなえる		
	13	バイエルピアノ教則本 NO45, 46, 50	31	弾き歌い おかえりのうた		
	14	夏季休暇中の実技課題(宿題)の発表	32	ピアノ個別指導 個人のレベルに合わせて指導する		
	15	前期まとめ ※前期に2回小テストあり	33	ピアノ個別指導 個人のレベルに合わせて指導する		
	16	後期始めの実技テストの準備	34	ピアノ個別指導 個人のレベルに合わせて指導する		
	17	バイエルピアノ教則本NO60, 62, 103	35	休暇中の課題宿題を発表 1年間で行われた小テストやスクーリングの不合格曲を再指導して、合格に導く		
18	バイエルピアノ教則本NO60, 62, 103	36	後期のまとめ 後期にスクーリングと発表会がある			
成績割合	テスト	10%	学習FB方法	基礎知識を学び、実践に役立てる。		
	学習態度・出席率	90%				
	レポート		成績評価	S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格		
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>60% A<<主体的参加型学習>>30% G<<海外体験型学習>>					
講師プロフィール	武蔵野音楽大学ピアノ科卒 テクノスカレッジでは、エレクトーン講師養成の指導に携わる(現在、学科は存在しない) 保育園の事務に2年間勤務して、保育士への音楽指導を行った。					

シラバス

科目名	表現 I		担当者名	平野 真由美	
学 科	こども科		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開講期 必・選	後期 選択	授業時間数	36時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・手話の基本を学ぶ ・聴覚障がいについて理解するとともに、さらに視点を拡大し社会的マイノリティについても理解を深める 				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・手話による簡単な自己紹介や日常会話の習得 ・聴覚障がいの基礎知識を学び、その背景や文化を理解する ・マイノリティ/ダイバーシティに目を向け、社会的バリア等々の認識を広げる 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己紹介や日常会話の実技習得 ・聴覚障がいの基礎知識や社会的少数者への理解などの座学 ・聴覚障がいゲスト講師との交流 				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	●ガイダンス・導入●挨拶の手話表現・授業で必須の手話単語		19	
	2	●伝える工夫・コミュニケーション手段には●手話の基本(指文字/教詞)		20	
	3	●手話の基本(指文字/疑問詞)●手話の基本(指文字/疑問詞を使った例文)		21	
	4	●自己紹介(名前/学校名/学科名)●自己紹介(住所/代表的な都道府県名)		22	
	5	●自己紹介(数詞の復習/年齢表現)●自己紹介(家族の表現)		23	
	6	●自己紹介(趣味の表現)●自己紹介(仕事の表現)		24	
	7	●自己紹介(総まとめ)●読み取り練習(教詞/指文字)		25	
	8	●疑問詞を使った応用例文(何/誰/どう) ●疑問詞を使った応用例文(いつ/どちら/なぜ)		26	
	9	●時制(一日の生活)●時制(一週間の生活)		27	
	10	●時制(一年の生活/四季の単語) ●動画:読み取り練習(色々なろう者の自己紹介part1) ●動画:ろう学生的一天(ろう文化理解)		28	
	11	●社会的バリアの理解(バリアフリー/ユニバーサルデザイン/SDGs) ●Xmasソング ●ろうゲスト講師との交流		29	
	12	●ろうゲスト講師との交流振り返り/聴覚障害の特性理解 ●時節の手話(お正月の単語)/簡単な挨拶手話 ●総復習/自己紹介の手話表現		30	
	13	●後期末表現試験(自己紹介)●後期末読み取り試験/知識問題筆記試験		31	
	14	●後期試験結果返却/解説/総まとめ●手話でレクリエーション(手話かるた等々)		32	
	15	●配信授業:動画「ろう文化について」●配信授業:動画「手話での絵本語り」		33	
	16	●配信授業:SDGsについてのレポート ●配信授業:障害者差別解消法の「合理的配慮」とは		34	
	17	●配信授業:手話ボエム/ハンドサインを使っているパフォーマンスとは ●配信授業:動画「フクチッチ【手話】」を視聴して総まとめ		35	
18			36		
成績割合	テスト	50% (小テスト含む)		学習FB方法	使用教材「豊かなコミュニケーション」(NPO法人 東京都中途失聴・難聴者協会 発行)
	学習態度・出席率	40%			
	レポート	10%		成績評価	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>40% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	手話通訳士として、講義・講演会・会議・その他生活の様々な場面での手話通訳活動や手話指導を通して、日々の研鑽と経験を授業に活かすことを旨としている。				

シラバス

科目名	野外レクリエーション		担当者名	北原 澄高	
学 科	こども科		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開講期 必・選	前期 選択	授業時間数	36時間
授業目的	<p>自然体験活動の重要性が増し、様々な地域で様々な野外活動が展開されるようになって来ました。その一方で事故等の件数も増加してきているのも現状です。本授業では自然の中で様々な活動を実施するのに必要な知識を学び、実際の現場で指導者としてその力を活かせるようにするための基礎知識習得を目的としています。</p> <p>なお本授業はキャンパインストラクター取得のための必修科目となっています。</p>				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	<p>野外活動を安全に指導していくための基礎知識の習得を目指します。</p>				
授業概要	<p>自然体験活動が大切であるということは指導要領や保育指針等においても記されています。その活動を安全に指導していくために必要な基礎知識を学ぶとともにプログラムの企画・立案等をグループ毎に行い、ケーススタディとなるような発表をしていきます。</p> <p>2泊3日の実習の参加することが必修になっている。</p>				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	キャンプを中心とした野外活動の必要性について	19		
	2	キャンプの歴史について日本国内における野外活動の現状について	20		
	3	日本国内における野外活動の現状について	21		
	4	事故の事例から事前の対策等を学びます	22		
	5	気象に関することについて	23		
	6	動物や植物など野外における危険なものについて	24		
	7	安全に活動するために必要な知識について	25		
	8	安全に活動するために必要な技術について	26		
	9	活動に必要な通信のあり方について	27		
	10	活動を評価する方法について	28		
	11	指導者として必要な資質について	29		
	12	指導者が実際に行なう役割について	30		
	13	12回までの授業をふまえグループごとにプログラムの企画、立案①	31		
	14	12回までの授業をふまえグループごとにプログラムの企画、立案②	32		
	15	グループごとに作成した企画案を発表	33		
	16		34		
	17		35		
	18		36		
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	<p>科目試験結果・受講態度及びキャンプ実習の参加の有無を総合的に評価する。</p>	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	10%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール					

シラバス

科目名	教育心理学		担当者名	前川 洋子	
学 科	こども科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	教育心理学は教育とくに乳幼児期から青年期における人の発達について心理学的に理解していく。本講義は発達に関する代表的な理論を踏まえたうえで教育における発達の意義と理解を土台にして子どもの主体的な学習を支える動機づけ、指導方法と実践活動について学びを進めていく。子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を習得していく。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学における動機づけなど学習に関わる理論を理解し、教育・保育場面で活用する方法が説明できる。 ・教育心理学の4つの領域「発達」「学習」「パーソナリティ・適応」「教育評価」の基礎的知識を理解し概説することができる。 				
授業概要	教育心理学における発達と学習の領域を中心に「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では幼児期までの発達の特徴や遊びを通じた変化について「学習」では動物実験を基礎とした学習理論や実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。				
授業計画表		授 業 内 容			授 業 内 容
	1	教育心理学の4つの領域を学ぶ意義		19	
	2	生涯発達心理学の概念 各段階における発達の特徴		20	
	3	連合説と認知説 様々な学習理論の応用		21	
	4	内発的動機づけと外発的動機づけ 学習性無力感と自己効力感		22	
	5	学習指導の形態 評価の仕方その意義		23	
	6	発見学習の手続き 動機づけの高まり		24	
	7	保育現場で活用できる事例		25	
	8	エリクソンの発達課題 各段階の発達の特徴		26	
	9	ピアジェ認知発達段階(理論) 発達段階ごとの特徴		27	
	10	感覚記憶 短期記憶 長期記憶 単純記憶から複雑記憶への変化		28	
	11	日常生活からみる学習理論 オペラント条件づけを利用した保育実践		29	
	12	ビグマリオン効果 学習形態とその効果		30	
	13	遊びの発達 遊びを通じた社会性の発達		31	
	14	第一次反抗期と自立 道徳指導法		32	
	15	教育心理学を用いた環境づくり		33	
	16			34	
	17			35	
	18			36	
成績割合	テスト		学習FB方法	成績評価	受講態度やレポート課題、科目試験等を総合的に評価する。
	学習態度・出席率				
	レポート				
	合計		100%		
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	豊岡短期大学特別招聘准教授				

シラバス

科目名	発達心理学		担当者名	前川 洋子	
学 科	こども科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開 講 期	前期	授 業 時 間 数	36時間
開講学年	1学年	必・選	選択		
授業目的	実際の保育活動や対人支援活動に関わる発達心理学の基礎的な理論および保育活動に重要な乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について重点的に学び、発達を捉える視点について理解する。 また、これらの事項に関わる基礎的な心理学についての知見を得て、養護と教育に活かせるようになることを目的とする。 発達は生涯を通じて起こるものであることを理解し、生涯発達についての概観的知識を得る。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	発達心理学の定義、発達心理学を学ぶ意義、発達心理学の具体的知見および発達心理学の実践的活用方法を示すことができる。 特に発達の原理および言葉の発達について説明できる。 発達心理学に関わる基本的な用語を理解し、説明できる。 特にピアジェの発達心理学について詳細に分類し、それぞれの時期の特徴について説明できる。				
授業概要	発達心理学の定義および発達心理学に関わる基本的な用語の解説、および生涯にわたる発達についての概要を示す。 特に乳幼児期については、発達の知見に加え、学習の意義や実践的な保育への活用法について併せて検討する。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	発達心理学の定義、発達心理学で学ぶ内容の概要	19		
	2	発達はどのように起こるか、遺伝説と環境説、それらの複合説について	20		
	3	発達の原理	21		
	4	ボウルヴィによる愛着理論と愛着の発達	22		
	5	ストレンジンチュアーション法と愛着理論の保育への活用	23		
	6	乳幼児期の発達、反射と表象の形成(ピアジェの感覚運動期を中心に)	24		
	7	乳幼児期の発達、表象の発達と認知発達の特徴(ピアジェの前操作期を中心に)	25		
	8	幼児期から児童期の発達、運動、言葉、情緒、遊びの発達、自己認識や社会性	26		
	9	児童期・青年期の発達、社会性の拡張とアイデンティティの確立	27		
	10	成人期の発達、親密性の確立と現在の社会からみる青年期の課題、人間関係の	28		
	11	壮年期、老年期の発達、人格の完成と死の受容	29		
	12	ハヴィガーストおよびエリクソンの発達課題からみる生涯発達心理学	30		
	13	発達心理学と教育学の関連、児童の発見から学校への適応まで	31		
	14	保育に活用できる発達心理学、発達課題、発達段階の理解による保育計画	32		
	15	自身の学びに活用できる発達心理学、生涯発達という観点からみて自分自身の	33		
	16		34		
	17		35		
	18		36		
成績割合	テスト	<small>科目試験の結果により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用いず)</small>	学習FB方法	成績評価	受講態度やレポート課題、科目試験等を総合的に評価する
	学習態度・出席率	<small>受講、積極的な学習態度を評価する</small>			
	レポート	<small>レポート課題による学習態度の向上、発表力向上等を評価する(評価はルーブリック評価を用いず)</small>			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	教育・保育現場に長年従事し、子どもやその保護者を支える活動や著書の製作に力を入れている。 豊岡短期大学特別招聘准教授として後進の育成に尽力している。				

シラバス

科目名	こどもと音楽表現 I		担当者名	中嶋 真人	
学科	こども科		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数	72時間
授業目的	情操教育の一環としての音楽教育において楽器を利用することは有効である。と考える。 その中でも『ピアノ』という楽器は表現豊かである上に多種多様に教育現場でも利用活用できる楽器であるとも考える。 この科目では『ピアノ』を保育士、幼稚園教諭が現場で活用出来る基礎力を身に付けることを目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカム)	前期目標(基礎演習 I) 以上の目的の第1段階目標とする 『ピアノ』奏法の入門レベル程度とされるバイエル60番台までの課題教材を弾けるようにする。主にハ長調の主要三和音と属七の和音の伴奏を習得する。 また 『ソルフェージュ』能力の入門レベル程度とされる『コーラルユーブンゲン』の37番台までの課題教材を歌えるようにする。 『長音階』から始め2度音程から6度音程に関する課題を。また拍子の意識を持たせ様々な拍子やリズムに慣れさせる。また拍の分割にも慣れさせる。				
授業概要	授業形態として主に『全体レッスン』『個人レッスン』の2つの形態をとる。 『全体レッスン』同じ課題を全員で行う。 『個人レッスン』各々の進捗レベル課題又スクーリングや試験等の事前に出題された課題を個々で行う。 また『全体レッスン』『個人レッスン』での課題を各自授業以外自宅等でも予習・復習として行い、知識・テクニック課題の習得しながら授業との連携をとり目標達成をねらうことを理想としている。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	自己紹介・授業の概要解説他	19	ハ調の長音階 バイエル65番 ト調・ニ調・イ調・ホ調の長音階と主要三和音の練習(別紙)	
	2	指番号と鍵盤と音符の関係(ド)のポジション)/ト音譜表とヘ音譜表と大譜表)と真ん中のドと鍵盤の関係	20	バイエル62番(手のポジション移動) バイエル103番(ハ長調の音階と主要三和音) ト調長音階ab バイエル72番	
	3	『練習曲1』『ぶんぶんぶんA』『ぶんぶんぶんB』『かつこう』『ちようちようB』練習曲『バイエル15』他	21	二調の長音階 バイエル75番 バイエル77番(臨時記号) ヘ調の長音階 ヘ調の長音階と主要三和音(別紙)	
	4	練習曲『バイエル19』練習曲『バイエル20』より『むつくりくまさんB』練習曲『バイエル29』『ちようちようC』	22	バイエル73番(臨時記号と半音階)バイエル68番69番70番71番(重音)	
	5	音階(長音階・短音階)の中の重要な音/音階上(長音階・短音階)の和音と主要三和音/ハ長調の三和音の中の主要三和音・属7和音と実践	23	ヘ調の長音階ヘ調の長音階と主要三和音(別紙)	
	6	『むすんでひらいて』『バイエル44』『喜びの歌』A～F『メリーさんのひつじ』ABC 『あたまかたひざボン』『ロンドン橋』他	24	バイエル92番(ヘ長調と3連符)	
	7	『ボルカA』『ボルカB』	25	バイエル94番(ヘ長調の音階と主要三和音)	
	8	練習曲『バイエル46』練習曲『バイエル48』	26	予備	
	9	練習曲『バイエル49』より・練習曲『バイエル50』より	27	バイエル96	
	10	練習曲『バイエル55』・練習曲『バイエル58』より	28	バイエル98	
	11	練習曲『バイエル59』練習曲『バイエル60』	29	予備	
	12	練習曲『バイエル62』練習曲『バイエル66』	30	バイエル104 半音階	
	13	ハ長調の音階と主要三和音(スケール&カデンツ)『ぼくの小さなティーポット』	31	バイエル102番	
	14	豊岡短期大学スクーリング【基礎演習1】	32	バイエル100番(別紙)	
	15	豊岡短期大学スクーリング【基礎演習1】②	33	豊岡短期大学スクーリング【基礎演習II】①	
	16	豊岡短期大学スクーリング【基礎演習1】③	34	豊岡短期大学スクーリング【基礎演習II】②	
	17	後期期始め試験課題練習	35	来年度前期期始めの練習	
18	後期期始め試験課題練習	36	来年度前期期始めの練習		
成績割合	テスト		学習FB方法	成績評価	
	学習態度・出席率	20%			
	レポート				
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	本講義担当講師の中嶋真人は群馬大学教育学部出身である。尚且つ5年間の小中学校での現場経験がある。それらを活かし本講義は展開していく予定です。 またピアノ弾き語りライブ・声楽リサイタル等の活動により声楽・ピアノ等の音楽技術の研鑽を積んでいる。それらも活かしながら講義の展開・指導を行う予定です。				

シラバス

科目名	こどもの発達と家庭支援		担当者名	前川 洋子	
学 科	こども科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開講期	後期	授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選	必選		
授業目的	生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解する。子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	生涯発達について理解し説明できる。 乳幼児期から老年期における発達課題について理解し説明できる。 家族・家庭の意義とその機能について理解し説明できる。 子育て家庭に関する現状と課題について理解し説明できる。 子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題について理解し説明できる。 子どもの精神保健とその課題について理解し説明できる。				
授業概要	生涯発達に関する知識を深め、乳幼児期から老年期に至る発達段階と発達課題等について学ぶ。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、子育て家庭に関する現状と課題について習得する。家庭教育支援上の課題についても学ぶ。				
授業計画表		授業内容			授業内容
	1	乳児期の発達		19	
	2	幼児期の発達		20	
	3	学童期の発達		21	
	4	青年期		22	
	5	成人期・中年期の発達		23	
	6	老年期の発達		24	
	7	家族・家庭の意義と機能		25	
	8	親子関係・家族関係の理解		26	
	9	子育ての経験と親としての育ち		27	
	10	子育てを取り巻く社会的状況		28	
	11	ライフコースと仕事・子育て		29	
	12	多様な家庭とその理解		30	
	13	特別な配慮を要する家庭		31	
	14	子どもの生活・生育環境とその影響		32	
	15	子どもの心の健康に関わる問題		33	
	16			34	
	17			35	
	18			36	
成績割合	テスト	<small>科目試験の結果により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用いる)</small>		学習FB方法	
	学習態度・出席率	受講、積極的な学習態度を評価する			
	レポート	<small>レポート課題における専門知識の活用、発表及び発表準備における対応力評価する(評価はルーブリック評価を用いる)</small>		成績評価	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	豊岡短期大学特別招聘准教授				

シラバス

科目名	こどもリズム表現		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	後期 必選	授業時間数	36時間
授業目的	表現遊びを展開するために必要な知識や技術を見出し保育指導法を修得していく。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	表現に関する知識や保育技術の習得と実践を通じた人間力の育成を目指す。				
授業概要	領域「表現」の内容を主軸とし、子どもにとっての表現についてその意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践を学ぶ				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	領域「表現」についての基本的な考え方とリズムについての説明	19		
	2	ダルクローズ、オルフ、創造的音楽づくりについて	20		
	3	基礎リズム1 歩く、止まる、回る、走るなどの身体表現	21		
	4	基礎リズム2 リズムパターンの理解とそれに伴う身体表現	22		
	5	基本動作1 基本動作の実践	23		
	6	基本動作2 基本動作の復習と幼児のイメージを豊かにする指導法	24		
	7	童謡やわらべうたについての多様な振り付けの実践1	25		
	8	童謡やわらべ歌についての多様な振り付けの実践2	26		
	9	英語の子どもの歌の振り付けと実践	27		
	10	楽器の取り扱いとオリジナル楽器の製作	28		
	11	オノマトペについての身体表現の実践	29		
	12	ボディーパーカッションについての実践	30		
	13	ボディーパーカッションについての実践	31		
	14	表現する力を育てるための保育者の役割と援助についての模擬保育の実践	32		
	15	クリスマスソングに合わせて身体表現	33		
	16	絵本のストーリーを取り入れた身体表現の実践 幼児が持つ表現への意	34		
	17	幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの紹介と創作	35		
	18	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り	36		
成績割合	テスト	30パーセント	学習FB方法	成績評価	出席率80%以上を基本とする。グループワークの参加状況も合わせて判断する。合格は60点以上。
	学習態度・出席率	50パーセント			
	レポート	20パーセント			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をしリズム指導の資格を取得している。 日本でも、ピアノ指導、リズム指導を行っている。				

シラバス

科目名	乳幼児保育 I		担当者名	河野 亮子	
学 科	こども		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開 講 期	選択	授 業 時 間 数	36時間
開講学年	2学年	必・選			
授業目的	3歳未満児の保育・保育の重要性について理解する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	1. 乳幼児保育の意義・概念と歴史の変遷及び背景と制度について理解する。 2. 保育所、家庭的保育等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳幼児保育における職員間の連携・協働及び保護者や関係機関との連携について理解する。				
授業概要	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴等、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解出来るようにする。 人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	乳幼児保育の意義・概念と歴史の変遷	19		
	2	乳幼児保育の一般化への経緯	20		
	3	乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援	21		
	4	レポート指導①	22		
	5	レポート指導②	23		
	6	保育所における乳幼児保育	24		
	7	乳幼児保育と子育て支援	25		
	8	家庭的保育等における乳幼児保育	26		
	9	3歳未満児の生活と環境	27		
	10	3歳未満児の遊びと環境	28		
	11	保育所保育指針における3歳未満児の保育①	29		
	12	保育所保育指針における3歳未満児の保育②	30		
	13	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等の関わり方	31		
	14	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	32		
	15	乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義	33		
	16	職員間の連携・協働	34		
	17	保護者との連携・協働	35		
	18	1回目～17回目の振り返り・科目試験	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上 S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育園・幼稚園の勤務を経て、地元の子育て支援サークルの運営にも携わる経験をもち、他の専門学校でも教鞭を取っている。				

シラバス

科目名	こどもの理解と援助		担当者名	前川 洋子	
学 科	こども		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育者は子どもを理解したうえで援助が求められる。子どもを理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶ				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解と援助について保育・教育の現場の実践に活かすことができる ・子どもへの適切な援助について心理学的知識などを用いて考えることができる 				
授業概要	保育実践において実態に即した子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。子どもの体験や学びの過程において子どもを理解するうえでの基本的な考え方を理解する・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	保育における子どもの理解の意義	19		
	2	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開	20		
	3	子どもに対する共感的理解と関わり	21		
	4	子どもの生活や遊び 保育者との関わり	22		
	5	子ども相互の関わりと関係づくり 集団における経験と育ち	23		
	6	葛藤やつまずき	24		
	7	保育環境の理解と構成 環境の変化や移行	25		
	8	観察 記録	26		
	9	省察 評価	27		
	10	職員間の対話 保護者との情報共有	28		
	11	発達課題に応じた援助と関わり	29		
	12	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	30		
	13	発達の連続性と就学への支援	31		
	14	保育園・幼稚園・小学校への連携	32		
	15	こども理解と援助の今日的課題	33		
	16		34		
	17		35		
	18		36		
成績割合	テスト	-----	学習FB方法		
	学習態度・出席率				
	レポート	-----	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	豊岡短期大学特別招聘准教授				

シラバス

科目名	保育実習 I		担当者名	河野 亮子	
学 科	こども		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	保育実習を円滑に行う為に必要な事柄を学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えが出来るとともに、保育実習に必要な知識・技術・実践力を身に付ける。				
授業概要	保育実習とは、保育者養成課程において習得しつつある教科の知識や技術を基盤として、これらを総合的に関連付ける力と、保育実践にこれらの知識や技術を応用する力を養い、子ども達を取り巻く保育現実の理解を通して、保育の理論と実践の関係について習熟させるものである。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	保育所とは(役割・機能等)	19		
	2	発達過程について(0・1・2歳児)①	20		
	3	発達過程について(0・1・2歳児)②	21		
	4	発達過程について(3・4・5歳児)③	22		
	5	発達過程について(3・4・5歳児)④	23		
	6	レポート指導	24		
	7	保育技術 絵本の読み聞かせ	25		
	8	保育技術 紙芝居の演じ方	26		
	9	保育技術 折り紙の折り方	27		
	10	保育技術 手遊び	28		
	11	保育所保育指針について①	29		
	12	保育所保育指針について②	30		
	13	発達を促す遊び・関わり・実践例を学ぶ①	31		
	14	発達を促す遊び・関わり・実践例を学ぶ②	32		
	15	実習日誌の記入方法	33		
	16	指導計画の記入方法	34		
	17	保育所実習事前準備について	35		
	18	1回目～17回目の振り返り・テスト	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法		
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89点 B79～70点 C69～60点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育園・幼稚園の勤務を経て、地元の子育て支援サークルの運営にも携わる経験を持ち、他の専門学校でも教鞭を取っている。				

シラバス

科目名	保育実習Ⅱ		担当者名	河野 亮子	
学 科	こども		授業方法	実習	
認定単位	2単位	開 講 期	選択	授 業 時 間 数	72時間
開講学年	2学年	必・選			
授業目的	保育士資格取得のための必修科目である。 まとめの保育実習として位置付けている。保育者としての基礎的な知識及び実践力を現場実習を通して養う。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	学内で履修した授業内容を踏まえ、保育所での実体験を通して、子どもの発達や最善の利益の原則等、保育者となるための基礎的な知識・技術及び倫理観を養う。				
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の基本的な機能や役割を体験的に理解している。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることが出来る。 3. 保育所の保育内容や保育環境について体験的に理解している。 4. 保育課程及び指導計画の意義を理解している。 5. 保育士の業務内容と職業倫理を理解し、向上心を持って取り組むことが出来る。 				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	保育所について理解する。(保育実習Ⅰを踏まえて)	19	立てた指導案に対する指導①	
	2	保育全般に参加し、保育技術を習得する。	20	立てた指導案に対する指導②	
	3	保育の1日の流れを理解し、参加する。	21	安全に配慮し、指導案を基に部分実習を行う。①	
	4	保育に参加することで、保育技術を習得する。	22	部分実習後、反省を基に指導案を立案する。	
	5	子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。	23	安全に配慮し、指導案を基に部分実習を行う。②	
	6	発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。	24	部分実習後、反省を基に指導案を立案する。	
	7	子どもの観察や関わりを通して、乳幼児の発達を理解する。	25	反省を基に責任(1日)実習の立案をする。①	
	8	保育内容や保育環境について、具体的に理解する。	26	反省を基に責任(1日)実習の立案をする。②	
	9	生活や遊びの一部分を担当することを通して学ぶ。	27	責任(1日)実習の指導案の指導をする。①	
	10	年齢、発達の違いによる遊びの興味関心の持ち方を知る。	28	指導案の再考・責任(1日)実習に向けた準備をする。	
	11	保育課程及び指導計画の意義を理解する。	29	責任(1日)実習の指導案を基にした、実習の実施。	
	12	保育課程や指導計画を見せてもらい、それが日々の保育にどのように活かされているのかを理解する。	30	責任(1日)実習の振り返りをする。	
	13	子どもが好きな絵本、紙芝居等児童文化財を知る。	31	責任(1日)実習の指導案の指導をする。②	
	14	支援が必要な子どもとクラスの関連性を学ぶ。	32	指導案の再考・責任(1日)実習に向けて準備をする。	
	15	喧嘩の仲裁方法を知る。	33	責任(1日)実習の指導案を基にした実習の実施。	
	16	食事の場面や食育への取り組みを知る。	34	責任(1日)実習の振り返りをする。	
	17	子どもの興味関心に合わせた活動内容の計画を立てる。①	35	保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。	
18	子どもの興味関心に合わせた活動内容の計画を立てる。②	36	振り返り・まとめ		
成績割合	テスト		学習FB方法		
	学習態度・出席率				
	レポート		成績評価	実習日程を全うし、実習の成績を7割、実習簿記入を3割として、評価を付ける。合格は60点以上とする。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育所で長きに渡り勤務し、及び地域の子育て支援等の活動を支えている。 教員が実習指導も含め担当する。				

シラバス

科目名	保育実習指導Ⅱ		担当者名	河野 亮子	
学 科	こども		授業方法	演習	
認定単位	1単位	開講期		授業時間数	36時間
開講学年	2学年	必・選	必選		
授業目的	保育実習を円滑に行う為に必要な技術等を学び、実践力を身に付ける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	1. 保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨くことにある。 2. 今まで専門学校で学んだ知識をどのように使いながら保育していくのかを学び、実践力と専門性を高める。 3. 実習の事後指導を通して、保育の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。				
授業概要	保育現場での保育実践を自分のものとして身に付けられることをねらいとする。他授業で学んだ知識及び保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で活かせるように準備する。また、保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分のものとして身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	保育所実習Ⅰの振り返り①	19	保育技術 紙芝居	
	2	保育所実習Ⅰの振り返り②	20	保育技術 手遊び・わらべ歌	
	3	発達を促す遊び・関わり・実践例を保育所実習Ⅰより学び合う(グループワーク)①	21	責任実習に向けての保育指導案の立案の仕方と実施のための留意点	
	4	発達を促す遊び・関わり・実践例を保育所実習Ⅰより学び合う(グループワーク)②	22	指導案作成(主活動)①	
	5	発達を促す遊び・関わり・実践例を保育所実習Ⅰより学び合う(グループワーク)③	23	指導案作成(主活動)②	
	6	レポート指導	24	模擬実習実践(指導案立案を基に課題活動部分を実践)①	
	7	発達過程(乳児クラス)について再確認する。	25	模擬実習実践(指導案立案を基に課題活動部分を実践)②	
	8	発達過程(幼児クラス)について再確認する。	26	模擬実習実践(指導案立案を基に課題活動部分を実践)③	
	9	保育所保育指針について①	27	実習日誌の記入方法を保育実習Ⅰを基に再確認する。	
	10	保育所保育指針について②	28	実習上の諸注意とまとめ(保育者としての倫理観、守秘義務、プライバシーの保護)	
	11	保育所保育指針について③	29	保育技術の再確認をする。(環境構成の技術、人間関係構築の技術、遊びを展開する技術等)	
	12	保育技術 素話①	30	子どもの心に寄り添うとは何かについて①	
	13	保育技術 素話②	31	子どもの心に寄り添うとは何かについて②	
	14	保育技術 ゲーム遊び	32	保育者、他の職種との連携・協働について	
	15	保育技術 折り紙	33	保育者、保護者との連携について	
	16	保育技術 ペーパーサート	34	保育実習Ⅱに向けての準備について	
	17	保育技術 絵本の読み聞かせ	35	保育実習Ⅱに向けて課題を立てる	
	18	前期振り返り・テスト	36	後期振り返り・テスト	
成績割合	テスト	テスト提出物・・・40%	学習FB方法	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～100点 B79～70点 C69～60点 D59点以下は不合格
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育園・幼稚園の勤務を経て、地元の子育て支援サークルの運営にも携わる経験を持ち、他の専門学校でも教鞭を取っている。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「音楽表現」II		担当者名	中嶋 真人人	
学科	こども		授業方法	演習	
認定単位	1単位	開講期	選択	授業時間数	36時間
開講学年	2学年	必・選			
授業目的	<p>情操教育の一環としての音楽教育において楽器を利用することは有効である。と考える。 その中でも『ピアノ』という楽器は表現豊かである上に多種多様に教育現場でも利用活用できる楽器であるとも考える。 この科目では『ピアノ』を保育士、幼稚園教諭が現場で活用出来る基礎力を身に付けることを目的とする。</p>				
授業目標 (ラーニング アウトカム)	<p>2年目標(総合演習) 以上の目的の第3段階目標とする、総合的段階目標でもある。 ピアノ奏法としてはバイエル終了程度として100番台～ブルグミュラーやさしい25の練習曲Op.100終了程度を使用する。 様々なダイナミクスをはじめとしてフレーズ・アーティキュレーション等の表現を意識出来ることに味わい慣れる。 ソルフェージュとしてはI・IIで学んだ内容を生かしながら様々な童謡やこどもの歌唱教材を階名唱でも歌う。また歌詞の内容も把握しながら歌い込み現場で必要な知識や技能を習得し理解を深める。その歌唱が弾き歌いにも活かせるように、模擬保育等を行い、実践力を高める。</p>				
授業概要	<p>授業形態として主に『全体レッスン』『個人レッスン』の2つの形態をとる。 『全体レッスン』同じ課題を全員で行う。 『個人レッスン』各々の進度レベル課題又スクーリングや試験等の事前に出題された課題を個々で行う。 また『全体レッスン』『個人レッスン』での課題を各自授業以外自宅等でも予習・復習として行い、知識・テクニック課題の習得しながら授業との連携をとり目標達成をねらうことを理想としている。</p>				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	自己紹介・授業の概要解説他	19	ブルグミュラー『小さな嘆き(ちよびり不満)』(バイエル100別紙教材)	
	2	バイエル『素直』(バイエル96)弾き歌い(スクーリング試験課題曲A)	20	二短調・ト短調・ハ短調の音階と主要三和音 ブルグミュラー『小さな嘆き(ちよびり不満)』別紙教材 『あめふりくまのこ』伴奏	
	3	イ短調・ホ短調の音階と主要三和音ブルグミュラー『素直』アラバスク(バイエル96)	21	前授業の続き	
	4	前授業の続き	22	前授業の続き	
	5	前授業の続き	23	ブルグミュラー『進歩(前進)』別紙教材『バスごっこ』伴奏・『アイアイ』伴奏	
	6	前授業の続き	24	前授業の続き	
	7	『牧歌(パストラル)』(バイエル104)弾き歌い(スクーリング試験課題曲C)	25	前授業の続き	
	8	前授業の続き	26	前授業の続き	
	9	前授業の続き	27	ブルグミュラー『狩』手のひらを太陽に』等伴奏法	
	10	前授業の続き	28	前授業の続き	
	11	ブルグミュラー『無邪気』別紙(バイエル102)『犬のおまわりさん』	29	前授業の続き	
	12	前授業の続き	30	ブルグミュラー『別れ』バラード』『乗馬』より1曲～3曲別紙伴奏法教材	
	13	前授業の続き	31	前授業の続き	
	14	実技テスト(豊岡スクーリング実践演習)	32	前授業の続き	
	15	実技テスト(豊岡スクーリング実践演習)	33	後期・1年間の実技試験	
	16	実技テスト(豊岡スクーリング実践演習)	34	後期・1年間の実技試験	
	17	後期期始め試験の練習①	35	次年度前期期始め試験の練習他	
18	後期期始め試験の練習②	36	次年度前期期始め試験の練習他		
成績割合	テスト		学習FB方法		
	学習態度・出席率	20%			
	レポート		成績評価		
合計	100%				
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	<p>本講義担当講師の中嶋真人人は群馬大学教育学部出身である。尚且つ5年間の小中学校での現場経験がある。それらを活かし本講義は展開していく予定です。 またピアノ弾き語りライブ・声楽リサイタル等の活動により声楽・ピアノ等の音楽技術の研鑽を積んでいる。それらも活かしながら講義の展開・指導を行う予定です。</p>				

シラバス

科目名	音楽指導実技Ⅱ		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開講期 必・選	必選	授業時間数	72時間
授業目的	ピアノ演奏技術を習得し、子どもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。 実習での実践に対応できるよう、多くの子どもの弾き歌いのできている。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	たくさんの子どもの歌を1年間の年間行事、季節に沿って覚え 各自レベルにあった伴奏付けをすることができる。				
授業概要	年間行事、季節に沿った課題曲を提示し、各自のレベルにあった伴奏付けをする。 コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができ、たくさんの子どもの歌の弾き歌いのできる。発表の場を積極的に設ける。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	生活の歌 お辞儀のコード あさのうた	19	実習曲 3年生と合同36回まで さんぼ(歌の指導から歌詞に合わせて身体表現)	
	2	生活の歌 おかたづけ実習曲	20	実習曲 19回の復習	
	3	生活の歌おかえりのうた実習曲	21	実習曲 アンパンマン(合奏指導→楽器を用意、正しい扱い方から)	
	4	生活の歌はをみがましよう実習曲	22	秋の歌 焼き芋グーチーパー(歌の指導から身体表現、テンポ、長調、短調の変化)	
	5	生活の歌おべんとう 実習曲	23	秋の歌 きこのこ(歌の指導から身体表現、テンポの変化)	
	6	季節の歌 6月かたつむり 5の復習	24	後期小テスト1	
	7	季節の歌 6月あめふりくまのこ6の復習	25	森のくまさん(ペープサートを使って導入、歌詞の定着)	
	8	小テスト1	26	ぼくのミックスジュース	
	9	愛唱歌 にじ	27	季節の歌 12月 森のクリスマス(ペープサートを使って導入) ジングルベル(リズム打ち)	
	10	季節の歌 7月 たなばたさま	28	27回の復習	
	11	季節の歌 キラキラ星10の復習	29	思い出のアルバム	
	12	幸せなら手をたたこう(身体表現)	30	1年生になったら (裏拍でリズム打ち、身体表現)	
	13	季節の歌 とんでったバナナ	31	1年生になったら	
	14	季節の歌 7月アイスクリームの歌今までの復習	32	実習曲 今までの復習	
	15	おばけなんてないさ	33	手のひらを太陽に	
	16	山の音楽家実習曲	34	小テスト2	
	17	山のワルツ 小テスト2	35	今までの復習	
18	前期の復習	36	今までの復習とまとめ		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	各自あった伴奏法で楽しく弾けるように指導をする。	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	授業態度、各自レベルに沿った弾き歌いの曲を完成できるかを重視する。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学び、リトミック指導の資格を取得して日本でも、ピアノ指導、リトミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	こどもの理解と相談支援	担当者名	前川 洋子
学 科	こども	授業方法	講義
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開講期 必・選 選択	授業時間数 36時間
授業目的	子どもを理解するために乳幼児の発達・学び・その過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学ぶことが重要である。子どもの発達状況に即した支援ができるように、心理的特質や教育的課題を捉える力を身に付けると共に、保育者として子どもの最善の利益のために、またより良い教育の方向を求めて指導と助言ができる基礎理論と実践について学ぶ。		
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、カウンセリングの基本について理解できるようになる。 ・教育相談、カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用について理解できるようになる。 		
授業概要	相談支援の究極的な目的は、子どもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象とした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。またカウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。		
授業計画表	授業内容		授業内容
	1	こども理解の意義 養護保育の一体的展開 幼児理解における基本的態度	19
	2	カウンセリングの基本 意義と理論 カウンセリングの基本的態度と共感、傾聴	20
	3	こどもの生活や遊び 保育の人的環境 こども相互の関わり 集団	21
	4	葛藤やつまずき 保育環境の理解と構成 環境の変化や移行	22
	5	知能検査 発達検査 行動観察法他	23
	6	知能検査 発達検査 行動観察法他観察 記録 省察 評価	24
	7	職員間の情報共有 保護者との情報共有	25
	8	こどもの自己表現と自己理解の発達	26
	9	実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の差異	27
	10	幼稚園・保育園における園児への心理的援助及び保護者との相談支援	28
	11	小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援	29
	12	発達障害 知的障害 自閉・情緒障害 特別な配慮を要するこどもたち	30
	13	不登園・不登校 いじめ 虐待 非行と小中学生の心理アセスメント	31
	14	保育園・幼稚園と小学校の連携 家庭との連携	32
	15	相談支援の課題と対応	33
	16		34
	17		35
18		36	
成績割合	テスト	<small>科目試験の結果により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用いず)</small>	学習FB方法
	学習態度・出席率		
	レポート	<small>レポート課題による中間試験(定期、最終)及び発表会による判定(評価はルーブリック評価を用いず)</small>	成績評価
	合計	100%	
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>		
講師プロフィール	豊岡短期大学特別招聘准教授		